

第3回 長岡京市緑の基本計画策定委員会 会議概要

開 催 日 時： 令和7年3月 21日(金)15時 30 分～17時00 分
 開 催 場 所： 長岡京市立図書館 3階 大会議室
 出 席 委 員： 森本委員(委員長)、宮前委員(副委員長)、山本委員、
 吉岡委員、藤井委員、志水委員、所委員、靱岡委員、
 平野委員
 【以上9名】
 欠 席 委 員： 小山委員、田中委員、
 【以上2名】
 傍 聴 者： 報道関係者1名、一般0名
 幹 事： 能勢総合政策部長、裕環境経済部長、中島教育部長、日高建設交通部長
 【以上4名】
 配 布 資 料： ・次第
 ・資料 長岡京市第2次みどりの基本計画について
 ・配席図

会議記録

1. 開会

2. 議事

委員長： 議事について、事務局より説明をお願いする。

事務局： (資料について説明)

委員長： 資料について、質疑、意見等をお願いする。

委員： 長岡京市の観光資源のほとんどが樹林である。観光資源は桜やつつじ、あじさい、紅葉などの樹木である。みどりは大切であるが、見頃の時期がずれてきており、さらに、これらはほぼ個人の持ち物なので、手出しすることができない。また、暖かくなるとタケノコが動き出し、手入れが大変である。タケノコの掘り手も高齢化や後継者不足のため人手が足らず、放置竹林が増えてくる。一度放置竹林になると簡単には戻せなくなる。農地も同様である。

また、鈴谷の辺り一帯が放置竹林になりつつある。この周辺は高速道路からの来客が期待できるため、ホテルや道の駅などの複合施設・温泉施設をつくったら良いのではないかと以前市に提案をしたが、この話はなくなってしまった。みどりは個人所有のものも多く、維持管理なども大変であり活用するのも難しい。長岡京市は市民一人あ

たりの市民税が全国でも高く、裕福な家庭が多いと思う。市民一人ひとりが、みどりについてどう考え、行動するかが基本的な問題である。

委員長： 実効性のある計画を描いていく必要がある。一気に解決することが無理であっても、皆さんとできるだけ良い絵を共有していく機会を作っていけないといけない。竹林問題は長岡京市にとって重要な問題である。これについては特出ししていくべきだと考える。ブランド力もあるので、うまく進めば、放置竹林問題の解決から、市の強味になる可能性も秘めている。資料２ページにも挙げられている。

委員： ヒアリングの際に、竹のことで勉強する、意見交換する機会が欲しいと言った。環境の都づくり会議では10か所以上の竹林を管理しているが、伐採竹は焼却することが多く、二酸化炭素を出すので環境に良くないとの意見も上がる。どのような資料を参考にすればわかりやすいのかを知りたい。また、竹の活用について、チップをつくって竹林に蒔いた方が良いという意見もあれば、チップを蒔いたら黒いタケノコが出てきたから良くないという農家もいる。竹チップはシリカ成分が多く、多量に蒔くことで害が出そうであり、埋めることにより窒素飢餓が起こる可能性もある。そういった判断について個人の団体では勉強しきれない。他にも、繊維に使う、お菓子に使うなどの活用方法があるが、どこかにつなげてもらわないと、ボランティア団体も高齢化しており、新しいことには積極的になれない。それを補完する仕組みができればよい。6万頭いると言われているイノシシの獣害対策、竹柵もすぐに風化してしまい負担が大きい。それらを話し合う、勉強できる機会があればよい。

委員長： 計画を決める上で、勉強していかないといけないという、重要なご指摘だった。人をつなぐことも重要であり、コーディネートすることが必要で、まずは役所で担うべきかと思うが、あるいは、他市ではNPOなどの中間支援団体が仕組みを担っていると聞いているので、取り組んでいかないといけない。

委員： 毎年、竹は変わっていく。タケノコ掘りで良いタケノコができそうな竹だけ残し、親竹にする。毎年倒す量、処分量が膨大である。私は竹には利用価値がなく、燃やすしかないと思っている。チップや竹垣、工芸品にしても使う量は少ない。竹は火力が強いが、薪やかまどに使う需要も減っている。あとは竹藪で土留めに使う程度だが、他に良い使い道があれば教えてほしい。

委員長： 昔、竹は非常に重要な資材だった。最近では他の資材の方が費用や便利さの面で競合している。他自治体でも竹活用の事例も多く、一定の成果は上げられている。解決はなかなか難しいが、経験の交流など今後考えておく必要がある。一説には長岡京市は孟宗竹の発祥の地とも言われており、この市で取り組むことがシンボリックな発信基地になる可能性もある。

委員： 竹チップは支援学校でも燃料として使ってみようとしたが、火力が強すぎてボイラーを傷めるため、燃料には向かなかった。

委員： 2 ページ目の「長岡京らしいみどりの保全と活用」のところの「新たな計画への方向性」で、社寺林の保全、歴史文化に関する事項に触れているが、次の4 ページではなくなっているので、可能であれば入れていただきたい。

まちなかのみどりの維持・充実に関わる宅地や民地による緑化は、市民が育成しないといけないので、長岡京市ではみどりを重要視するということを市民に教え込まないといけない。人材育成が重要である。私が住んでいるところに生け垣がたくさんあったが、なくなってきている。隣り合った家同士の生け垣を繋げていこう、と思ってもらえるような市民教育が必要である。

課題の主語が何かわからないので、全部行政がやってくれるように感じる。私有地のことをやらないといけない話なので、地道な活動ではあるが、何十年後かには変わるよう、人材育成の話を入れてほしい。

委員長： 宅地や民地による緑化の話が出たが、国の新しい認定制度で TSUNAG 認証（良質な緑地の確保の取組を評価・認定する制度）が始まった。先日、14 件の認定が発表された。都心の大きな開発でみどりを確保している事例が多い。複数の事業者と一緒に取組んでいるものもあるが、自治体が取組んでも良い。TSUNAG 認証は国交省の目玉施策のひとつで、「気候変動対策」、「生物多様性の確保」、「Well-being の向上」の3つの視点で評価される。市がコーディネーターとなり、みんなで取組んでいければ良いのではないか。そのほか、社会的支持の獲得や国による財政支援の活用などのインセンティブや ESG 投資などの周知もしていければと思う。

委員： みどりが多いと温暖化対策にも寄与する。アスファルトの多い地域のみどりを増やしていく、土に戻していくことは良い話だと思う。長岡京市が温度を下げていくと、大きく打ち出しても良いのではないか。長岡京市は市域の約半分が西山のみどりであるし、結構貢献しているのではないか。

委員長： 「みどりで笑顔のまちづくり」も良いが、もっと大きくいってもいいのではないか。国が 2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標である 30by30 を掲げている。

長岡京市は市域の半分近く西山のみどりがあり、環境都市宣言もしている。そういった時に市だけでなく民間との協働が大切になってくる。長岡京市はみどりのサポーターなどボランティアが京都市と比べると多い。

委員： 最近住宅を建てても植木がない家が多い。大きな住宅でも植木が手入れされてい

ないことも多い。植木を植えたくても、後の手入れや金銭面等を考えると若い人も植えられない。みどりのサポーターも高齢化し、人数が減ってきている。以前はクリスマスの集いでリース作りを行っていた。今は野菜が高いので、プランターでできる野菜づくりに変えれば、サポーターに加入する認識が高まるのではないか。

委員長： 非常に可能性のある話かと思う。花もいいが、野菜ができたならおいしい。公園では収穫できるものは作らせてもらえないことが多いが、シアトルではコミュニティガーデンという、地域がNPO法人化して市と協定を組んで野菜を栽培し、まちの緑の環境にも役立っている事例がある。また、分区園といういわゆる貸農園のような形もあり、始まったのはドイツであるが、スイスでもきれいな景観が形成され、インセンティブが沸く。市も30㎡以下の提供公園が出てきて、取扱いに困っているということだったので、小さい公園でコミュニティガーデンといった運用の可能性はあるのではないか。

副委員長： 身近な公園について、防災的な観点から言うと、そこに畑があると安心感がある。イギリスではコミュニティガーデンは制度として発達している。まちなかこそコミュニティガーデンのようなものが必要で、そこが地域の方々の拠点になりうる。市の条例として、提供公園の管理者が町内会や自治会にいれば、緑地を維持することも楽しくなる。

新しい施策の検討に際しては、基本方針として、農地の保全、新しい公園づくり、民有地の緑化など、それぞれ取り組むことがあるが、それを横断的に行う方針があるとういのではないか。

神戸市では放置竹林の竹をどうするかを考えており、幼稚園で竹馬づくりを推奨している。長岡京市の幼稚園で竹馬づくりをやってみてはどうか。

委員： 小学校や支援学校の体験学習では竹を使った遊び道具を作ったり、それを使って遊んだりしてもらっているが、それほど量が必要ではない。竹はカビが生えるので、毎年新しいものを作製している。

幹事： 竹の利用に関する課題は何十年も前から把握し議論おり、西山森林整備推進協議会でも竹林整備を計画的に実施しているが、なかなか解決策が見いだせない。搬入搬出、継続性などの課題もある

委員： 竹の中は空洞なので、断熱材として竹を小中学校の陸屋根に並べて、教室内の温度が高くならないようにすることもできる。かなりの遮熱効果が期待できる。市でも一つの学校で実施したと聞いた。

副委員長： これまでも取組んでいるが効果がないではなく、次の発展のために取組んでいくこと

が重要である。今話に上がった学校の陸屋根に並べることも一度やってみて、それも効果がなければまた次を考えるのはどうか。

委員長： 国の施策でも循環型地域づくりや GX などに投資をしているが、この辺りをコーディネートしてみどりのまちづくりに繋げてくれる支援者が出てきてほしい。長岡京は魅力的なフィールドであると思っている。

委員： 校舎に使うのは効果検証も含めやってみたい。検証をするのであれば秋頃でないと、夏場は腐りやすく虫が発生しやすい。

委員： 伐採した竹はどのくらいの期間ストックしておけるのか。検証するのが秋だとするとそこまで保管しておけるのか。

委員： 土留めで置いておくと2～3年でダメになる。

委員： 水分量が一番少ない時期が11月、12月だと言われている。

委員長： Nature-based Solutions という、自然を活かした適応策・対応策が必要だ。竹林対策勉強会を全国に呼び掛けてやってみるのも面白い。

委員： 松は細くなっていき、マツタケが出そうになると枯れてくるもの。今はシダがたくさん出てきて、ウサギやシカなどが隠れるところがあり、マツタケが採れなくなっている。

委員： 西山の手入れと言っても、竹林を切っては倒し、切っては倒ししている程度。かつては燃やしっぱなしで、灰はそこら辺にほったらかしていたが、今では、燃やした炭を欲しい人に提供している。
里山の再生作業として、西山キャンプ場周辺の間伐を行っている。年に4～5校の小学校が遠足などで訪れていたが、コロナ後はあまり来なくなった。西山キャンプ場はトイレも整備されていたが、維持管理が大変で撤去する予定だという話がある。子どもたちに里山を体験させるという場所として有効活用されてきた。トイレがなくなってしまうのであれば、子どもたちはどこへ連れて行けばいいのか。

委員長： 非常に重要な話だった。ハードウェアとして整備するのとは別に、子どもたちに体験してもらい、市民が触れ合うなどは Well-being に関係してくる。アンケートでは子育て、健康福祉、特に子どもの健康福祉などが高い結果になっているので、今の意見は取り入れるべきである。

委員： 西山キャンプ場だけが子どもたちの里山体験ができる場所ではなく、周辺にも自然公

園があるが、子どもたちが集っている様子はあまり見られない。

委員： 西宮名塩の森で子どもたちを連れて行くイベントを実施した。森にはトイレがないため、イベントの初めに穴を掘ったトイレ作りをやっており、防災教育にも寄与するので、森遊びのワークショップなどを開催しても面白いのではないかな。

委員長： 森の幼稚園というような活動はないのかな。

事務局： 長岡京市内の公園に西山公園子どもの森があり、緑の協会によりタケノコ堀り体験を実施してもらっている。また、西代里山公園ではもち米の田植え、稲刈り、花菜植えや収穫を幼稚園や小学校の子供たちに体験してもらっている。

委員： 各保育園や幼稚園、小学校では、それぞれが近隣の農園で活動している。それに加えて協会でやっているところに参加するのが楽しいのではないかな。いろいろな場所で活動をしているが、子どもたちは場所が変わることも楽しいのではないかな。どこでどんなことをやっているか調査し、整理しておいたらどうか。取りまとめも大事。

委員： 基本理念は1行で表現するのか。今の案だと、改行すると「風格とゆとりある」というキーワードが「みどり」にかかっている関係が分かりにくくなる。今後の話かと思うが、冊子では工夫して表現ほしい。

副委員長： 4ページの基本方針1「沿川」とは具体的にどこをイメージしているのかわかるように。それと、基本方針2「時流」が理念の「悠久」と反対の印象を受ける言葉だが合うのか、また、基本方針3「まちなかのみどり」とあるが施策3-1に「山麓」があり、山麓はまちなかになるのかどうかイメージができなかった。

委員： 「長岡京市らしい」とは具体的にどのようなものか。今日話を聞いていると、共通認識は竹林に頭悩ましているところなのかなと思った。

委員： 歴史・文化も含めてほしい。前の基本計画には保存樹木のこと、お寺のことなども記載されていたので、うまく入れられないかなと思う。2P にはあるが、4P からなくなっている。

事務局： 本日のご意見を踏まえ修正していきたい。
本市では市の中心部に緑地が少ないことから、緑化重点地区では 30 m²以上の緑地を開発時に設置・提供を設置することになっている。30m²程度の小規模であっても提供してもらえばいいか、もう少し大きくすべきなのかなご意見をいただきたい。

委員長： 小規模分散型という視点では、小規模でもうまくやればトータルでは機能の高いものになりうる。課題は、それを上手くマネジメントできるかどうか、

副委員長： 大きすぎたら面倒を見切れないということも考えられる。提供公園について、5年もしくは 10 年の有期限の契約でもいいのできちんと管理するなど、自治会との仕組みができれば状況は良くなるのではないか。

委員長： キッチンガーデンのようなものができればいい。京都市ではちびっこひろばが成功していた時代もあり、地元が管理していた事例もある。

6. 閉会

事務局： 今後のスケジュールとして、本日のご意見を踏まえながら、みどりの基本計画の方向性、理念、方針、施策の検討を固める。具体的な施策や検討内容については、次回の委員会でお示しする。

なお、次回の委員会については来年7月頃を予定している。また改めて、連絡させていただく、よろしくお願いします。

以上